

2024/06/02

説教題:義認：：成熟と自己否定

OICの皆さん、お早うございます。

義認とは、イエスが私たちの永遠の赦しを買うために十字架上で死なれたことに基づいて、私たちはもはや罪がなく、義とされるという神の宣言です。今日、私たちは、信仰によって義とされたクリスチャンが神によって自由にされ、また他の人のために自己犠牲の生活をするように召されていることを、パウロがどのように描写しているかを詳しく見ていきます。

それでは、ローマ書を進んでいきましょう。私たちは数週間前に、使徒パウロが多くの聖書の文章を一行で要約し、律法の本質は LOVE であると述べているのを読みました。(ローマ 13章10節)：「愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします。」さて、パウロは私たちが隣人、特にクリスチャン仲間に対して、自己否定によってその愛をどのように発揮するよう求められているかを示しています。

5月18日の私のメッセージの最後の箇所、「義認：自由とクリスチャンの義務」から始めましょう。クリスチャンが神の前で明瞭な良心を保つために重要な聖句は(ローマ 14章23節)にあります。：「しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。なぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。」信仰によらないものはすべて罪である、というこの最後の句は、実はクリスチャンの人生、良心だけでなく、栄光への歩みにおいて重要な聖句です。これは、クリスチャンがイエスに会うための正しい道を歩んでいるという、イエスによる目に見える励ましと目に見えない励ましを受けた信仰の歩みなのです。

では、パウロの伝道旅行における体験的キリスト教を見てみましょう。パウロの説教はイエスのために新しい弟子を獲得していました。彼は、この実りある伝道の前に、「石打ちの刑に処されそうになった」という最近の体験に触発されていました。(使徒 14章19 - 22節)で見ることが出来ます：「ところが、アンテオケとイコニウムからユダヤ人たちが来て、群衆を抱き込み、パウロを石打ちにし、死んだものと思って、町の外に引きずり出した。20しかし、弟子たちがパウロを取り囲んでいると、彼は立ち上がって町にはいって行った。その翌日、彼はバルナバとともにデルベに向かった。21彼らはその町で福音を宣べ、多くの人を弟子としてから、ルステラとイコニウムとアンテオケとに引き返して、22弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、「私たちが神の国にはいるには、多くの苦しみを経なければならない。」と言った。」聖霊は、私たちに信仰のうちに歩むように励まします。たとえ、嫌なことや傷つくことがあったとしても、信仰を継続するための思いと導きを与えてくださいます。パウロは「石打ちの刑に処されそうになった」ところでしたが、神はユダヤ人たちの計画とは別の計画を持ってお

られました。パウロは、まだ普通の人間であり、その経験は彼にとって多くの苦しみでありました。パウロは、イエスの弟子たちに、イエスに従うことの真理を知るように勧め、懇願したかったのです。特に、絶えることのない平和と栄光が、クリスチャンがイエスとともに天国へと歩む終着点にあることを。だからパウロは、「私たちは多くの苦難を経て神の国に入らなければならない」ことを彼らに知らせたのです。

栄光への歩みの中で、神がお許しになる多くの苦難の意味を見ましょう。私たちが最初に思い浮かべるのは、恐ろしい災害や病気などかもしれません。それが神の御心かもしれません。しかし、聖書の艱難の積義や意味は、「困難な便宜」という広い範囲をカバーしています。原語のギリシャ語を見ると、苦難とは、(θλίψις) thlipsis です。これは、圧力、圧迫、苦悩、心の苦悩、苦しい状況、試練、苦悩など、さまざまなレベルの苦難を表現しています。

艱難の一例として、イエスの「種のたとえ」があります。このたとえは(マタイ 13 章 3 - 23 節)にあります。岩場に落ちた種はすぐに成長しましたが、炎天下で枯れてしまいました。これは、キリストの福音を受け入れた人を描写しています。(マタイ 13 章 21 節 /MOUNCE) :「しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難(thlipseōs / θλίψη εως)や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。」地上のすべてのクリスチャンは、さまざまなレベルの迫害を受けるでしょう。

艱難のもう一つの意味は、使徒パウロとその宣教チームに対する、サタンに促された人々による物理的な行為を含む、厳しい霊的戦いの例です。というのは、(2 コリント 1 章 8 節 /MOUNCE) で言っています:「兄弟たちよ。私たちがアジアで会った苦しみ(thlipseōs | θλίψη εως)について、ぜひ知っておいてください。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、ついにいのちさえも危くなり、」クリスチャンの中にある聖霊の力強い臨在は、ミニストリーにおいてより多くの実りをもたらすだけでなく、苦しみの中にあってもより多くの喜びをもたらします。(ローマ 5 章 3 節/MOUNCE) :「そればかりではなく、患難(thlipsis | θλίψη σις), さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐(thlipsis | θλίψη)を生み出し、」

牧師、このことと、今日強調されている「他者のための自己否定」とは、どのような関係があるのでしょうか？ 実際、パウロは、多くの急進的なユダヤ教徒が彼を殺そうとする中で、イエスの福音を宣べ伝えるために自己否定の模範を示しました。イエスが私たちに求める自己否定のレベルがどのようなものであれ、これは私たち全員にとって素晴らしい模範なのです。

(ローマ 15 章 1 節) の冒頭の言葉のように、自分が弱者から強者への連続体のどこに位置するのか、いったいどうやって知ることができるのだろうか、私はよく考えていました。:「今、強い私たちは.....今、強い私たちは、力のない人たちの弱さに耐えなければならない。」自己分析が重要すぎて、イエスから目を離してしまうことがあります。しかし、あなたが「キリストにあって成熟する道」を歩んでいることを神があなたに伝えていることを知ることは、傲慢でも高慢でもありません。キリストの御霊によって、キリストがあなたを抱き、導いてくださることに一定の確信を持てるまでに成熟したという印

象を感じているのであれば、あなたは自分自身を「強い私たち」だと思ってしまうかもしれません。クリスチャンに多くの苦難がなければ、神の国に入る道から外れてしまっていることを、「強い私たち」は心の底から知っています。アメリカの低レベルの英語スラングで、この牧師はこう言い換えるだろう！} 自分を「強い私たち」の範疇と見ることは、「自信」ではなく、「イエスの自信」なのだ！。

強い私たちの範疇に入るということは、成熟していないクリスチャンの重荷を受け入れ、彼らの未熟さに耐えるということでもあります。(エペソ4章1-4節/KJ21):「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、3 平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。4 からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。」「耐える」という言葉は英語では一般的ではないし、日本語でもそうかもしれません。そこで、ギリシャ語の新約聖書では「forbearing」、ἀνεχομαι (anechomai) となっています。ギリシャ語で書かれた新約聖書では、常に「中動態」である。この場合、動詞の主語は自分自身に対して、あるいは自分自身の利益のために行動していると見なされます。これは英語の「受動態」の動詞の態に似ています。「能動態」の動詞、例えば「宣教する」とか「行く」といった言葉と比較されます。その英語の「受動態」は、ここに挙げた「anechomai アネチョマイ」の意味、すなわち「忍耐強く耐える」、「我慢する」、「苦しむ」、「認める」、「許可する」にぴったりです。つまり、強いクリスチャンは、仲間のクリスチャンの未熟な振る舞いを許すべきだということです。そして(ローマ15章1節):「私たち力のある者は、力のない人たちの弱さをになうべきです。自分を喜ばせるべきではありません。」もちろん、未熟なクリスチャンが、あるいは成熟したクリスチャンが、他のクリスチャンに対して、あるいは教会に対して罪を犯すような乱暴な行為をしているかどうかを知ることは、寛容な世の中においては不可欠です。この場合、私たちは「受動的」で「許可的」であってはならないし、愛をもって互いに寛容であってはなりません。神の言葉、イエスを愛するということは、そのようなクリスチャンを悔い改めに導くために、「能動態」の動詞のように、立ち向かったり、叱責したりする「愛の行動」が必要なのです。しかし、ほとんどの弱いクリスチャンは、信仰の強さを持たない者たちです。しかし、イエスのために聖なる生活を送りたいという良心や願望がないわけではないのです。成熟したクリスチャンは、最初に信じたときから神が彼らの信仰をどれほど成長させてくださったか、またイエスが彼らを罪と汚れの穴から救い出してくださったかを思い出す必要があります。未熟なクリスチャンをやさしく正そうとしなければならぬが、真実と平和を交換してはならない！

(ローマ15章2-3節):「私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。3 キリストでさえ、ご自身を喜ばせることはなさらなかったのです。むしろ、「あなたをそしる人々のそしりは、わたしの上にふりかかった。」と書いてあるとおりです。」成熟したクリスチャンは、信仰の弱いクリスチャンとの関係において、より穏やかな、あるいは受動的なあり方を心がける必要があります。彼らの教化のために、彼らを喜ばせるために努力するのです。今、教会のすべての指導者が、弱いクリスチャンについて、あるいは弱いクリスチャンに関して、神からの知恵を求めて

祈らなければならない大きな問題があります。その人は教えられやすい人でしょうか？
教えられやすい未熟なクリスチャンだけが成熟へと導かれるのです！

(ローマ 15 章 3 節/Beck) : 「パウロのメッセージの意味をよくとらえている : あなたが
たを侮辱する者は、わたしを侮辱する』と書いてあるとおりです。」 パウロは、この
15 章 3 節で (詩篇 69 篇 9 節) を引用しています : 「それは、あなたの家を思う熱心が私
を食い尽くし、あなたをそしる人々のそしりが、私に降りかかったからです。」

イエスがエルサレムの神殿を霊的に聖めたことに対するユダヤ人の宗教指導者たちの反応
は、クリスチャンが未信者から非難される明確な例です。(ヨハネ 2 章 13 - 17 節) : 「ユ
ダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた。14 そして、宮の中に、
牛や羊や鳩を売る者たちと両替人たちがすわっているのをご覧になり、15 細なわでむち
を作って、羊も牛もみな、宮から追い出し、両替人の金を散らし、その台を倒し、16 ま
た、鳩を売る者に言われた。「それをここから持って行け。わたしの父の家を商売の家と
してはならない。」17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くす。」
と書いてあるのを思い起こした。」

ユダヤ人たちが即座に反応したのは、イエスに対する「不信仰」からでした。(ヨハネ 2
章 18 - 21 節) : 「そこで、ユダヤ人たちが答えて言った。「あなたがこのようなことをす
るからには、どんなしるしを私たちにを見せてくれるのですか。」19 イエスは彼らに答え
て言われた。「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。」20
そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなた
はそれを、三日で建てるのですか。」21 しかし、イエスはご自分のからだの神殿のこと
を言われたのである。」

この時、これらのユダヤ人たちは感情を抑えていたかもしれないが、イエスの行動と言葉
に対する彼らの「非難」は、イエスが十字架につけられた時に完全に解き放たれました。

(マタイ 27 章 39 - 40 節) : 「道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって、40
言った。「神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。もし、神の子なら、自分を救ってみろ。
十字架から降りて来い。」. 私たちがクリスチャンであるという理由で、未信者が私たち
を侮辱したり、非難したりするとき、私たちはイエスとそのミニストリーにおいてユダヤ
人から受け入れなければならなかったことを経験していることとなります。ギリシャ語
では、この「非難」、ὀνειδισμός (oneidismos) は、(ローマ 15 章 3 節) で使われ
ているように、非難、または中傷と表現されています。もっと難しいのは、成熟したクリ
スチャンがクリスチャンから非難されたり侮辱されたりすることです。このようなクリ
スチャンは、いつもとは限りませんが、たいてい信仰の浅い信者、つまり未熟なクリスチ
アンです。多くの場合、彼らは自分の救い以外の神の事柄について無知です。しかし、
成熟したクリスチャンは、イエスが救われていないユダヤ人にしたような反応をしてはな
りません。これこそ、イエスが成熟したクリスチャンに求めておられる、自分たちを侮
辱する同胞の信者たちに示すべき難しく、人間には不可能な愛なのです。

(ローマ 15 章 4 節) : 「昔書かれたものは、すべて私たちに教えるために書かれたので
す。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。」それ
以前の時代に書かれたものをカバーする時間も場所もありません。それは本当に、聖書に
記録されている完全な旧約聖書や契約を意味です。パウロが西暦 57 年にローマ書を書い

たとき、手紙と福音書のほとんどはまだ途中でした。しかし、パウロが言及しているのは明らかに旧約聖書であり、ユダヤ民族の歴史です。ユダヤ人のすべての罪にもかかわらず、これは神の忍耐の証であり、神の民に忍耐を持つように勧めるものです。（ローマ 9 章 27 節）：「また、イスラエルについては、イザヤがこう叫んでいます。「たといイスラエルの子どもたちの数は、海べの砂のようであっても、救われるのは、残された者である。」そして（ローマ 11 章 5 節）：「それと同じように、今も、恵みの選びによって残された者がいます。」イスラエルとユダ（イスラエルの北部と南部）は、神の忠実な預言者たち（中でもイザヤとエレミヤ）が、侵略軍が勝利するという預言的で不評な神の言葉を宣べ伝えた場所です。しかし、この 2 人の預言者は、私や他の多くのクリスチャンが好きな、希望と忍耐する信仰を示す聖書の箇所を 2 つ持っていました。預言者イザヤは、バビロニアの侵略をヒゼキヤ王に預言しました。（イザヤ 39 章 6 節）：「見よ。あなたの家にある物、あなたの先祖たちが今日まで、たくわえてきた物がすべて、バビロンへ運び去られる日が来ている。何一つ残されまい、と主は仰せられます。」その後、神の民が捕囚の身となる中、イザヤは聖霊によってイザヤ書 40 章を与えられます。そこには、アブラハム、イサク、ヤコブの神の信仰に忍耐する信仰者への報いが数多く約束されています。これらは（イザヤ 40 章 31 節）を含みます。：「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れなない。」そして（エレミヤ 29 章 10 - 12 節）：「まことに、主はこう仰せられる。「バビロンに七十年の満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにわたしの幸いな約束を果たして、あなたがたをこの所に帰らせる。11 わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ。——それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。12 あなたがたがわたしを呼び求めて歩き、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに聞こう。」

（エレミヤ 29 章 11 節）を初めて聞いたときのことを思い出します。私は自分の心の中にある恐れや不信感との戦いを学んでいました。落ち込んでいたかもしれない...でも、イエスに見いだされたことに感謝していました。その聖句を必要とせず、その聖句を与えてくださる方を信頼するほど、私たちは成熟していません。成熟したクリスチャンは、唯一の本当の災いは、私たちの主であり救い主であるイエスからの分離であることを学びました。最初は、（エレミヤ 29. 11）は、あなたにとって「うまくいかない」ことは何もないという意味だと思っていました。全然違います。使徒パウロがイエスの弟子たちに語った（使徒 14 章 22 節）「多くの苦難を経て、私たちは神の国に入らなければならない」という聖句の意味を、聖霊はまだ私の理解にもたらしけていなかったのです。

（エレミヤ 29 章 11 節）にある未来と希望というエレミヤのメッセージの意味を引き出すために、神の民の文脈と状況を見てみましょう。：「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ。——それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」この人々は捕囚の身であり、敵によって自由を奪われる未来を見ていました。しかし、主は彼らに解放と未来と希望を約束されました。だから今日、私たち生まれながらのクリスチャンは多くの苦難を味わうだろうが、敵であるサタンが私たちを捕らえることは決してできません！ 御子があなたがたを自由にするなら、イエスが（ヨハネ 8 章 36 節）で言われたよう

に、あなたがたは本当に自由になるのです。そして、イエスの十字架の犠牲による義認のゆえに、私たちは70年も待つことなく、知ることができます(11節b)。イエスは、すべての弟子たち、すなわち、いつまでもイエスに従う者たちに、次のように約束されました(マタイ7章7節)：「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。」

牧師の忍耐の人生から得たもの-新しい信者への教訓

(ローマ15章5節)：「どうか、忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようにしてくださいませように。」 私は以前、イエスと共に栄光への歩みを終えるだけの「忍耐力」がないと「心配」していました。その時、聖霊が、「求めよ、さらば与えられん。求めよ、さらば見出さん。たたけ、さらば開かれん」(マタイ7章7節)のように、弱き者も強き者も、求めようとするすべての神の子どもたちを強くするために、御言葉をどのように用いるかを教えてくださった。私は信仰からではなく、必要から求め始めました！しかし、そこから信仰を深めて、(エレミヤ9章11節)にある神の約束された計画の下での私の計画は、栄光まで辿り着く忍耐力を持つことでした。このことは、私が求め続け、神が与え続けておられる(ローマ15章5節)忍耐と励ましを与えてくださる神と宣言されていることから確認できます。

(ローマ15章5節)に書かれているように、キリスト・イエスに従って互いに同じ心を持つためには、しばしば自己否定が求められます；「どうか、忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようにしてくださいませように。」それは、聖書のある部分についての意見の相違かもしれません。成熟したクリスチャンは、「十字架」や「義認」といったキリスト教の主要なテーマについて、同じ考えを持つために学びます。聖霊は私たち全員を成熟させてくださるので、聖書やクリスチャン生活に関して同じ考えを持つようになるのです。

(ローマ書15章6節)：「それは、あなたがたが、心を一つにし、声を合わせて、私たちの主イエス・キリストの父なる神をほめたたえるためです。」聖霊が、私たちの不完全な努力にこのような結果をもたらしたのです。このイエスの賛美は、宇宙全体が、喜んでいる聖人も、強制され断罪された罪人も、そして呪われた悪魔も、いつかすぐに行くことなのです。これは、(ピリピ2章8-11節)に預言されています：「キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。9それゆえ、神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。10それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、11すべての口が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」私たちクリスチャンは、いつでも喜んでイエスを賛美する喜びを得るが、特に日曜日には心を一つにして賛美します。

(ローマ15章7節)：「こういうわけですから、キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。」「こういうわけですから」というこの御言葉は、強い者も弱い者も互いに受け入れ合い、心を一つにして(ロ

一マ 15 章 5 節)、礼拝の中でイエスを賛美し、神が栄光を受けることを願うという、上記の教えに関するものです。教会での礼拝を促進する神の言葉がここにあります。

(ローマ 15 章 8 節)：「私は言います。キリストは、神の真理を現わすために、割礼のある者のしもべとされました。それは先祖たちに与えられた約束を保証するためであり、」パウロは今、ユダヤ人と異邦人のいるローマの教会に、両方に適用される義認という彼の基本的なテーマを思い出します。パウロはローマ人への手紙の中で、このことを以前にも教えています(ローマ 3 章 28-30 節/AMPC)：「人が義と認められるのは、律法の行ないによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人にとっても神ではないのでしょうか。確かに神は、異邦人にとっても、神です。30 神が唯一ならばそうです。この神は、割礼のある者を信仰によって義と認めてくださるとともに、割礼のない者をも、信仰によって義と認めてくださるのです。」

1 世紀の教会では、ユダヤ人と異邦人の間に多くの社会的緊張がありました。生まれながらのクリスチャンには、聖霊が彼らの人生から取り除いてくださる荷物があるが、ユダヤ人クリスチャンと異邦人クリスチャンの間にも、同様に強者と弱者を互いに受け入れることが必要です。過去 50 年間、そして二千年期までのアメリカ合衆国 (USA) における人種間の緊張は、1 世紀におけるユダヤ人と異邦人の間の緊張と非常によく似ています。アメリカでは、ほとんどの黒人クリスチャンは人種的に黒人の教会に通っていました。両方の人種のクリスチャンの個人的な生活において、クリスチャンの統合ははるかに進んでいました。しかし、クリスチャンはまだ人間的であるため、教会文化においても伝統的な偏見を持ち続ける傾向があります。異なる人種や文化的アイデンティティを持つ異なる教会を持つことは問題ない。しかし、一つの教会で異なる文化を差別することは許されません！ ですから、使徒パウロはここで、1 世紀の教会におけるそのような行為に大反対しているのです。確かにパウロは、(ローマ 15 章 6 節) で強調しています：「それは、あなたがたが、心を一つにし、声を合わせて、私たちの主イエス・キリストの父なる神をほめたたえるためです。」神は、私たちが恵みに対して恵みに依存しているように、私たちの罪深い心を見守っておられます。どの教会でも、私たちの主イエス・キリストの神であり父である {彼} を声ひとつで賛美することができる時、神は特に祝福されます。

(ローマ 15 章 9 節)：「また異邦人も、あわれみのゆえに、神をあがめるようになるためです。こう書かれているとおりです。「それゆえ、私は異邦人の中で、あなたをほめたたえ、あなたの御名をほめ歌おう。」10 節で再び言います「異邦人よ、その民とともに喜べ」11 節で また、「すべての異邦人よ、主をほめたたえよ、すべての民に主をほめたたえさせよ」。12 節で またイザヤは言う、「イエスの根が来て、異邦人を支配するようになる。」異邦人は彼のうちに喜ぶ。」

そこでパウロは、キリストにおけるユダヤ人と異邦人の一致を預言していた旧約聖書の預言者の言葉を引用しながら、ユダヤ人が異邦人を受け入れようとしないことに対処しています。これは、パウロが新しい宗教を創り出したのではなく、キリスト教が律法と預言者を成就し、すべての人に神と神の愛を現したキリストに従っていることをユダヤ人クリスチャンに納得させるためです。

このように、「書いてあるとおり」には、旧約聖書の（ローマ 15 章 9 節）の（第二サムエル 22 章 50 節）と（詩篇 18 篇 49 節）からの引用、（ローマ 15 章 10 節）の（申命記 32 章 43 節）からの引用、（ローマ 15 章 12 節）の（詩篇 117 篇 1 節）からの引用、（ローマ 15 章 12 節）の（イザヤ 11 章 10 節）からの引用が含まれています。したがって、「書いてあるとおり」という言葉は、旧約聖書の信仰と私たちが知っている新約聖書とを結びつけているのです。

クリスチャンは、主イエスに喜ばれることを学ぶために、しばしば自己否定を決意しなければなりません。（ローマ 15 章 7 節）：「こういうわけですから、キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。」

この自己否定の必要性は、20 世紀後半にアメリカの白人クリスチャンの多くが黒人クリスチャンを受け入れる際にも適用されました。これは、1 世紀にユダヤ人クリスチャンが異邦人クリスチャンを受け入れたのと似ています。アメリカでは、未熟なクリスチャンの中に反黒人差別の罪深い名残がありました。多くの黒人は奴隷制度の罪のために奴隷であり、罪深い社会が彼らを押し流していたのでした。パウロのこれらの教えは、これが教会において許されない行為であることを教えています。私の説教題：「義認」は、「成熟と自己否定」と言ってもいいかもしれません。「成熟と自己否定」（ローマ 15 章 7 節）は、そのキーとなる聖句です：「こういうわけですから、キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。」しかし、最近の聖書箇所多くには、宣教師として、また牧師としてのパウロの心が、ユダヤ人と異邦人のクリスチャンに成熟と自己否定を優しく、しかししっかりと呼びかけているのが見て取れます。異邦人は、ユダヤ教の「宗派」と呼ばれたイエス信者の交わりの中にいることを思い出すと、はっきりします。本当に、キリスト教は旧約聖書（ユダヤ教の歴史）にそのルーツを持っています。したがって、ユダヤ人クリスチャンは、そのようなルーツを持たない異邦人に対して優越感を抱きがちかもしれません。エルサレムのようなイスラエルの教会は、異邦人信者に対して多くの偏見を持っていました。しかしパウロは、異邦人もユダヤ人と同じようにアブラハム信仰の霊的家族の一員であると明言しました。彼が神の使徒として期待したのは、そしてそれゆえに神が異邦人信者に期待したのも、彼らがこの神の家族に接ぎ木されたことへの感謝でした。私たちはローマ人への手紙 11 章、特に（ローマ 11 章 17-20 節）でこれを見ました：「17 もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。19 枝が折られたのは、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。20 そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。」

パウロは、ユダヤ人クリスチャンに対して傲慢な態度に傾いている、あるいは傾いている異邦人クリスチャンに、恐れを持つように警告しているのです。ギリシャ語新約聖書の原典にある他の恐れの意味と解釈を解き明かしました。新約聖書

は、パウロの警告のように、神が生まれながらの子どもたちに対して恐れを用いることはめったにないことを明らかにしています。したがって、必要なところに接ぎ木された野生のオリーブの枝であることを感謝する異邦人クリスチャンは、神に対して聖なる畏敬の念を持つという一般的な恐れの状態しか持っていません。キリストにあるユダヤ人と異邦人は、神の目には全く平等です。彼らはみなキリストの中にあり、神からそのように見られているのです。

(ローマ 15 章 13 節) : 「どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。」パウロはこの段落を牧会的な祈りで締めくくっています。彼は、イエスが与えてくださった羊たちに対する心からの願いを示しています。彼らの多くは、彼の伝道活動によって救われましたが、中には彼に先立って、あるいは先にローマに到着した人々によって伝道された者もいました。この箇所は、パウロの天への祈りであり、ローマのクリスチャンへの励ましです。

パウロは、文明世界の首都にある国際的な教会群に宛てた書簡であるローマ人への手紙の中で、詳細な神学や神についての知識を記している。彼は、すべてのクリスチャンがその体内に内在する聖霊を持っていることを明らかにした。(ローマ 8 章 9 節) : 「けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。」しかし、私たちは使徒パウロが人間であることを認めなければなりません。キリストのすばらしさを体験した者は誰でも、それを他の人にも与えたいと思うものです。パウロは、復活の主イエスと対面し、聖霊の充満を受け、そのすばらしさを体験しました。パウロはダマスコへの道で復活し栄光を受けたイエスと出会った後、盲目となりました。イエスは、パウロに癒しと神のダイナマイト(ギリシャ語では δύναμις, dynamis) の力をもたらすために、弟子ではあっても本来の使徒ではない無名のクリスチャンを選ばれたのです。この聖書の出来事は、ブラッド・ハウディシエルの「No Little People, No Little Places : 小さな人もなく、小さな場所もない。」の説教にぴったりです。アナニアは、以前はサウロと呼ばれていたパウロが「イエス信奉者」を殺そうとしていることを知っていたからです。アナニアはパウロを見つけに行きました。(使徒 9 章 15 - 19 節) : 「しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人是我の名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。16 彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」17 そこでアナニヤは出かけて行って、その家にはいり、サウロの上に手を置いてこう言った。「兄弟サウロ。あなたが来る途中でお現われになった主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。」18 するとただちに、サウロの目からうろこのような物が落ちて、目が見えるようになった。彼は立ち上がって、バプテスマを受け、19 食事をして元気づいた。．．．」

後に(ローマ 15 章 13 節) で、パウロはローマの信徒たちを祈り励ましていたと書かれています： あなたがたは、聖霊の力によって希望にあふれるのです。アナニヤの手で聖

霊の満たしを受けた彼は、すべてのクリスチャンにこの大きな力を与えたいと願っていました。

先に読んだように、神は捕囚の悲しく落ち込んだイスラエルの民に対しても、希望の神でられました。希望の神は、クリスチャンが主イエスを信じて生きる時、このようなあらゆる喜びと平安の体験を忠実に創造して下さいます。喜びと平安、そして信じ続けるための助けは、聖霊の力によってもたらされます。パウロは、聖霊に満たされているクリスチャンは、より多くの聖霊の実を結び、より多くのイエスの力を周囲の人々に与えることを知っていました。

今、私たちは聖餐式によって、赦された被造物が神の恵みによって神の御霊そのものを溢れんばかりに受けることを可能にする歴史的な出来事を祝います。この出来事とは、キリストの十字架です。

...祈りましょう！

参考文献

AMPC - Amplified Bible Classic, Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

Beck - **The Holy Bible, An American Translation** by William F. Beck. Lake Publishing Company, Osage Beach, Missouri.

KJ21- 21st Century King James Version (KJ21)

Copyright © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.

NASB1995 - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995, 2020 by The Lockman Foundation. All rights reserved.